

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290400092		
法人名	社会福祉法人 柏友会		
事業所名	グループホーム 静香荘		
所在地	〒036-0343 黒石市浅瀬石字龍ノ口170番地1		
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年4月に開設しました。事業所は、黒石観光りんご園へと通じる山の中腹にあり、風光明媚で静かな環境の下、ゆったりとした時間を過ごすことができます。事業所の基本理念である「私たちは、利用者様ひとりひとりが役割と生きがいを持って、自分らしく暮らすことを支援します」を念頭に職員一人一人が愛情をもって、優しく接するように心がけています。地域との関わりを重視している為、地域の小学校・幼稚園との交流会や夏祭りを開催する等して、地域交流を積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台にある集落の中にあり、建物の背後には山やりんご畑を眺めることができ、季節が感じられる自然環境の中に位置する。また、事業所の雰囲気はアットホームで自宅にいるように穏やかにくつろげる空間となっている。理念として「私たちは、利用者ひとりひとりが役割と生きがいを持って、自分らしく暮らすことを支援します。」と掲げられていて、利用者一人ひとりに日常の出来るものを見つけ出し、この役割を行って頂くことで生き甲斐を持って自分らしく暮らすことができるとしており、こだわりを持って職員全員が日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは、利用者様ひとりひとりが役割と生きがいを持って、自分らしく暮らすことを支援します。」という理念を掲げ実践している。又、ネームプレートの裏に印刷し、毎朝朝礼の際に唱和している。食器拭きや洗濯物畳み等の実践が多い。	「利用者様ひとりひとりが役割と生きがいを持って、自分らしく暮らすことを支援します。」という理念を、日々の生活の中で実践している。理念はスタッフルームに掲示されている他、各自のネームプレートにも付けており、理念に触れる機会が多くなる工夫がされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、事業所だけの行事開催となった。地域の催し物も参加出来ず。施設の水回りや設備の修理等は地域の水道屋にお願いしている。又、観光りんご園からは毎年りんごを頂いている。	コロナ禍で外部との交流がままならない状況下、地域の方々との交流の機会を増やす努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所に関しての相談業務は出来るだけ行っているが、新型コロナウイルスの影響により電話だけのやり取りになることが多かった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	全員が参加できるように開催日時を設定しているが、今年は、2ヶ月に1度、書面で運営状況を報告し、委員の方から出た意見は業務に反映できるように心がけている。	コロナ禍で対面での会議はできないが、定期に運営状況を書面で報告しており、委員の方に意見をできるだけ出して頂き、業務に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の担当職員が出席しているが、今年は書面での報告のみになっている。来庁時には、随時相談し出来る状況であり、日常的に連携が図られている。又、毎月の空き状況の報告も行っている。	市役所の担当者とは、意見やアドバイスを仰いだり、空室状況について情報交換が行われたり、市との連携が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として、身体拘束は行わない方針である。3カ月毎に勉強会を行い、拘束による弊害について職員で理解を深めている。施錠については、安全確保のために21:00～5:00以外は行っていない。	方針として身体拘束をしないケアが掲げられており、職員には理解が深められるよう3か月ごとに勉強会を行っている。また、玄関の施錠は日中は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等により、高齢者虐待についての理解を深めている。又、常日頃からの観察や職員同士のコミュニケーションを深めることで、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等により、権利擁護の理解に努めている。現在、成年後見制度を利用している方がいるため、身近な制度として全職員がとらえている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書を用いて、十分に時間をかけて説明し、事業所、利用者双方ともに納得した上で契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の様子については手紙や電話にて報告している。又、病院受診時や特変時には、都度、家族へ連絡をしている。事業所には意見箱を設置し、苦情相談の仕組みを家族へ周知している。	日常的に利用者や家族が意見や要望を出し易い環境づくりに配慮している。また、玄関には意見ボックスを設置し、いつでも意見等を出せる機会を設けて、その意見等を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議、フロア会議を開催する事で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を確保している。他、年2回全職員より業務改善提案を出してもらい、反映させている。	職員が自由に意見・提案が出せる仕組みがあり、毎月のように職員から意見や提案が出され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で研修によるランクアップ制度を設けており、給与に反映される仕組みになっている。又、勉強会等の資格取得に向けてのバックアップ体制もあり、取得時には手当に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修への参加を積極的に促し、機会を増やせるように努めている。又、法人内にて、年度途中に採用となった職員を対象とした新人研修の取り組みも予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業者連絡会に加入している。定期的と同業者と交流する機会があり、情報交換することで、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時には、電話ではなく施設見学も兼ねて直接、事業所で話を聞くようにしている。事業所全体の雰囲気を感じてもらった後に、面談を行いニーズ等の把握に努めているが、今年は短時間にしたり電話対応をすることが多かった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時には、家族とも個別に面談する時間を設けている。家族の要望も十分に聞き入れているが、利用者本位の設営を同時に行う事で、利用者、家族双方の要望を傾聴し、バランスを保つように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わせてサービスを選択して頂けるように、様々なサービスの説明を行っている。又、入所後も状態に応じて住み替えの説明や情報交換も行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食事の下ごしらえ等を職員と利用者が一緒に行う事が日常的にある。他、季節ごとのおやつ作り等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に過ごす時間を少しでも持つてもらうために、面会や外出、外泊等を積極的に働きかけているが、今年は新型コロナウイルスの影響により実践できず。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に合わせ、入居前のかかりつけ医、美容院等を継続して利用できるように支援している。	本人の希望を重視して、美容院や病院等、馴染みの関係の継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や関係性を把握し、職員同士で情報を共有することで、トラブルに発展しないように配慮している。又、グループ外出を通じて共有の楽しみを味わう機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時等の必要時には、相談に応じ協力する体制がある事を説明し、利用者、家族の不安の軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や観察によって、思いや意向を把握していくように努めている。又、家族面会時等に得た情報はアセスメントシートに記載するようにしている。	日常の介助、表情の観察や家族の面会時に、家族から聴き取りしたアセスメントシートの記録から思いや意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や担当ケアマネージャー等から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務日報、ケース記録により状態の把握に努めている。職員は、就業前に記録をよく読んで1日2回の申し送りで情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前に得た情報や本人、家族との面談によりケアプランを作成している。その後は、日常の様子や家族等からの聞き取りを参考にし、カンファレンスを行いケアプランに取り入れている。	利用者本位のケアになるよう関係者が話し合い、その意見が反映されたケアプランが作成されている。また、その後モニタリングを経て定期的にケアプランの見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報、ケース記録、申し送りにより情報の共有に努めている。日々の生活の中で得た気づきはアセスメントシートに記載したり、カンファレンスの際に話し合うことでケアプランに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りや自宅に外泊したい等の突発的なニーズにも柔軟に対応している。事業所内で都度、検討を行い、対応する体制づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の代表や、地域の民生委員、地域住民の方等に運営推進委員をお願いしているので、地域資源の情報等を得たり、地域とのネットワーク構築に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望によって、入居前のかかりつけ医を継続できるように支援している。又、受診付き添いも行って、家族と協力しながら健康管理を行っている。	本人、家族等の希望するかかりつけ医への受診を継続できるように支援している。家族と協力して適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ、主治医に相談し指示を仰ぐようにしている。介護職員だけで判断に迷うような場合等は、すぐに看護職員に相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に情報提供を行い、定期的に面会に行くことで関係作りを行っている。又、病棟の看護師や医療連携室等と連絡を取り合うようにしている。退院時には家族も交えて話し合う場を設定するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を確認したうえで、事業所で対応可能な範囲において出来る限りの支援を行うようにしている。	入居時に重度化や終末期の事業所の対応可能範囲について説明しており、その範囲内で家族の意向に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にAEDを設置している。消防署員の方を講師に、心肺蘇生法やAEDの使用法についての講習会を行い、知識や技能の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。内1回は夜間想定した訓練を行っている。又、震災や停電時の対応等の研修も事業所内で行っている。	年2回消防訓練を実施していて、うち1回は夜間を想定した訓練を実施しており、地域住民との協力体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとりひとりのプライバシーには常に気を配って対応するようにしている。他職員の言動で気になることがあった場合には、職員会議やミーティング時に話し合う時間を持つようにしている。	利用者のプライバシーに十分配慮するよう職員には徹底しており、気になる言動があった場合は、職員間で随時話し合いが行われ、課題が解消するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の生活の中でゆっくり会話する時間を持つようにしている、表情やしぐさを読み取ることで、声にならない声の把握にも努めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせて生活できるように支援している。入浴や散歩等もその時の気分に合わせて行えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に整容に気を付けるように対応している。女性の方の場合は、行事の際に化粧をする等、おしゃれをする機会を設けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に会話を楽しみながら下ごしらえをすることも多い。誕生者の希望メニューの提供、外食等で食事を楽しめるよう支援している。	職員と一緒に野菜の皮むきなど調理の下ごしらえを行っている。また、利用者の誕生日には食べたいものを提供したり、外食をしたり、食事を楽しむことを支援している。利用者と一緒に調理も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成している。毎食の食事量、水分摂取量もチェックしている。咀嚼や嚥下状態に合わせ、形態や食器を工夫し、必要摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きでは利用者の状態に合わせて、声掛けや介助を行っている。うがいができないかたは口腔清拭を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせ、トイレ誘導やポータブルトイレ、オムツ使用等を使い分けている。オムツ使用であっても常時にならないように定期的にカンファレンスを行っている。	利用者一人ひとりに合わせた、きめ細かな自立支援をしている。必要に応じて排泄ケアの見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の接種で自然排便を促している。又、便秘時は必要に応じて、主治医や看護職員に相談し、指示を仰ぐ場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時は、随時、希望により変更できるようにしている。時間帯についても、午前、午後問わずに入浴することが可能である。	利用者一人ひとりに合わせた入浴時間や日時としており、ヒノキ浴槽と天然温泉も相まって、心も体も温まり、入浴が楽しめる支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	極力日中は活動的に過ごして頂き、夜間の安眠につなげられるようにしている。疲労感が認められるときには、いつでも休息してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬剤情報をもとに、チェックリストを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所の基本理念の一つでもある「役割」をもって過ごして頂けるように支援をしている。飲酒が好きな利用者に対しては、年に数回は飲酒できる機会も設けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望によって外出支援を行えるようにしている。行事の際にも、個人外出やグループ外出等、本人の希望に合わせて戸外へ出かける機会を設定している。	コロナ禍で、クルマでの外出が主で、ドライブで紅葉を見に行ったり、買い物に出かけたり、自宅へ物を取りに行ったりと、利用者の希望に沿うように外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は所持してもらっている。金銭管理が困難な方であっても小遣いを使って、買い物ができるような機会を作っている。今年は代行で嗜好品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は、希望があればその都度かけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備には常に気を配っている。又、屋外の花壇や野菜、花を食堂に飾ることで季節感を感じてもらえるように支援している。	食堂の壁には季節の果物やクリスマスの絵など季節を感じられる物を掲示して、季節を感じられる居心地よい空間になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを置き、気の合った仲間と談笑できるスペースとして利用いただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んで頂いたり、家族の写真等を飾ることで、居心地よ過ごせるように支援している。	自分の部屋であることが感じられるよう、馴染みのタンスやイスなど持ち込んで頂き、心地よく過ごせるように支援している。家族写真も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を活用しながら出来ていない部分を支援するという基本姿勢で、過剰なサービス提供にならないように努めている。		